学校番号	1206

令和８年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「高校生の美術Ⅰ」　（日本文教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・デッサン、色彩などの美術における基礎・基本を学習します。
・さまざまな表現方法を学び、絵画・彫刻・デザインなどの作品制作に取り組みます。
・制作途中や完成後に振り返りレポートの作成や相互鑑賞を行い、作品に対する客観的な視点や相互理解を深める学習活動を行います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・対象を捉える造形的な視点について理解し、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。
【思考力、判断力、表現力等】
・造形的な良さや美しさ、表現の意図、美術の働きなどについて考え、主題を生成し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。
【学びに向かう力、人間性等】
・主体的に美術の創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育み、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・対象を捉える造形的な視点について理解できる。	・感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の発想や構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。 ・創造的な美術表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができる。	・美術の幅広い創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組む態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	絵画	デッサンの基本 「立方体・球・円柱」 デッサン 「身近なものと 手を描く」	a:構図を考え、デッサンに必要な技能を身に付けている b:部分と全体を考えながら、立体感や奥行き、陰影を正しく表現している。 b:表現の工夫を感じ取り、互いの作品について理解を深めている。 c:複数の練習課題に取り組み、デッサンの基本を理解し、主体的に粘り強く取り組もうとしている。	構図 画材の使い方	作品の完成度	活動中の様子 振り返りシート
後期	デザイン	色彩の基本 「明度・彩度・色相 トーン・色の対比」 色彩構成 「直線を使った構成」 「曲線を使った構成」	a:アクリルガッシュの特性を生かし試作を通じて作品全体のイメージを捉え、表現方法を工夫して表現することができる。 b:形や配色などを考えて、表現の構想を練ることができる。 b:表現の工夫を感じ取り、互いの作品について理解を深めている。 c:試作を通じて色彩の基本を理解し主体的に粘り強く取り組もうとしている。	作品の構想段階 ワークシート	ワークシート 作品の完成度	活動中の様子 振り返りシート
	立体	粘土を使った表現 「抽象彫刻」	a:軽量紙粘土の特性を理解し、表現方法を工夫している。 b:テーマに沿って自由に発想し、構想を練っている。 b:抽象彫刻の鑑賞を通して形の美しさや表現の工夫などを感じ取り、自由な表現への理解を深めている。 c:立体制作に関心を持ち、主体的に粘り強く取り組もうとしている。	作品の構想段階	ワークシート 作品の完成度	活動中の様子 振り返りシート

	鑑賞	日本やアジアの美術について	a: 日本やアジアの美術作品から、美意識や創造性を感じ取り、それぞれの国の美術文化についての見方や感じ方を深めている。 b:作者の心情や、意図と表現の工夫などについて感じ取った上で、自身の判断や思いをまとめたり発表したりすることができる。 c: 日本やアジアの伝統的な表現に関心を持ち、美術文化を理解しようとしている。	調べ学習用ワークシート	まとめ用ワークシート	活動中の様子 振り返りシート
	木彫	レリーフ板	a：糸のこや彫刻刀の使い方を習得し、彫り方や着色の仕方などを工夫することができる。 b:スケッチや試作を繰り返し、自由な発想でレリーフの構想を練っている。 b:表現の工夫を感じ取り、互いの作品について理解を深めている。 c:各工程に関心を持ち、主体的に粘り強く取り組もうとしている。	作品の構想段階	ワークシート 作品の完成度	活動中の様子 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度